



とうきょう すくわくプログラム 2025年度活動報告書（5歳児） 文京白山雲母保育園



テーマ【 植物・生き物 】

設定した理由・背景

キャンプ村にはどんな植物・生き物がいるか。「虫はいっぱいるか」「暑いのか」など子どもたちの疑問を問いとし、キャンプ村と園周辺の違いについて調べることにした。

用意した環境設定

- ・図書館へ行き、植物や生き物の図鑑を見て身近な行きもや植物について調べる。
- ・キャンプ村の植物や生き物について調べる。
- ・押し花の作り方を調べ作ってみる。
- ・準備物 教材、図鑑、観察備品

活動のあゆみ

- ・5月、6月ごろから身近にある植物を観察。
- ・5月後半から気温の報告。
- ・7月花や葉を観察し押し花を作成。
- ・8月お泊り保育では奥多摩の植物を観察し見たことのない植物を採取する。山道や川で見たことのない生き物を捕まえ観察し何の生き物か調べる。気になった草や木、葉、花などを集め持ち帰る。
- ・お泊り保育後に採取した植物を図鑑で調べる。その植物で作品を作る。

※探究活動の実績※

①日々の保育で植物や生き物にはすでに興味を持っており、カブトムシやトカゲを飼っていた。

その中で、「お泊り保育に行くけどどんなところか知ってる？」と問いかけをする。昨年度のお泊り保育の写真や動画を見てみる。

↓

②子どもからは「川遊びやりたい」「魚とりたい」「カブトムシいるかな」と声上がり、奥多摩にはどんな生き物がいるのかを図書館へ行き、調べてみた。また、山も歩くことをすると「きれいな花あるかな」と声があがった。カブトムシも世話をしながら成長日記を書き、生態を調べたり考えたりした。

↓

③活動中の子どもたちの姿・声

散歩中どんな花が身近にあるか探しながら歩いた。名前の知らない花もあり、採取し、園に戻り図鑑等を用いて調べた。

「この花しおれちゃった」と悲しそうな声が出た。「きれいなままとっておけるよ」と保育者が提案し押し花作成を行なった。

「葉っぱでもいい」と相談があがったので、花でも葉っぱでも良いと伝え散歩の際に好きな植物を採取して押し花でしおりを作成した。

その後お泊り保育に参加し、山道の植物を観察し採取したり、気に入った葉や枝を園に持ち帰る。

また、川にカニやヤゴ、メダカなどいて見たことのない生物に興味を持ち、写真で撮り調べた。

↓

④園の周りにある草花に興味を持ったことで奥多摩の環境を知りたい気持ちが出ていた。また、花に限らず、色々な葉があり色や形が違う事に疑問を持ち、調べる姿が見られた。

花や葉だけでなく枝も観察する様子が見られた。

川の生き物では「ヤゴ」「カワトンボ」「川のカニ」など普段あまり目にしない生き物の名前が何なのか知りたいという気持ちが芽生え探索していた。また、他にも何か知らない生き物がいなか探することに夢中になる姿があった。



園児が姉妹園の子と一緒に皮の生き物を探している様子



お泊り保育で拾った枝や葉で作った作品



山道の草を観察したり、生き物を探したりしている様子



カブトムシを観察し細部まで良く見て観察日記を書いている様子

まとめ

植物や生き物は自然と興味を持ち子どもの探究心を深めるのに最適な題材だと思った。ただ飼う、ただ草花を見るだけでなく、更にその先にあるものに目を向けられるようになるためのきっかけを保育者が環境づくりをすることで子どもの「何で」「なぜ」が生まれるのだと感じた。お泊り保育では山道をただ歩くだけでなくゆっくり草花や感触を確かめながら歩くことで葉一つひとつの違いに気づいたり、気付にくい小さな花があったりと子どもの目線で保育者も感じるものの重要性を感じた。また普段の生活では出会えない生き物が奥多摩にはいることに気付き、生き物がどんな環境だとくさるのか、探究活動を通して知ることが出来た。今後も生き物や植物など自然を通して考える疑問を更に深めていける環境を作っていきたい。そして、都会では体験できない自然のある環境での活動を増やし継続して活動していきたい。



とうきょう すくわくプログラム 2025年度活動報告書（3～5歳児） 文京白山雲母保育園



テーマ【 生き物 】

設定した理由・背景

家で虫や生き物を飼っている子が多く、室内でも図鑑を読んでいる姿や、家で飼っている生き物について友だち同士話している姿から、更に理解を深める事、他の生き物にも興味を持つ事をねらいとし設定した。

用意した環境設定

- ・前年度子どもたちが捕まえて飼育していたカタツムリと園で飼っていたカブトムシの飼育を子どもたちと取り組み、いつでも見える位置に置いてどのような様子が見られるように環境を整えた。
- ・準備物：カブトムシゼリー・カブトムシの土・飼育備品

活動のあゆみ

飼育している生き物のお世話、観察、図書館で図鑑や絵本で調べた。週に1度霧吹きで水をあげ、どのような様子なのかその度皆で観察する時間を作った。エサが無くなっていると「もうエサないよあげなくちゃ」と子どもたちが気づいてくれる姿があった。観察した後は観察日記を付けた。絵日記を付ける事で不思議に思った事が出てくる事が多く、その度に図鑑で調べていった。月に1度、図書館にも行く機会があったので、そこで捕まえた生き物の本を借りて読んでいる姿があった。

4月～カタツムリ・カブトムシ育て始める（カブトムシはさなぎになりそうだったのでそっと観察した）

6月～カタツムリが赤ちゃんを産む

7月～トカゲを捕まえて育て始める

8月～カブトムシの蛹が成虫になり卵をいくつも産む
カブトムシとカタツムリの親とトカゲが死んでしまう（皆で土に埋めに行く）

9月～カブトムシの卵が羽化する。霧吹きで水をあげたり幼虫の観察を始める

1月...今まで子どもたちが調べて気が付いたことや「なぜ・どうして」を知れた内容をクイズ形式にして発表する

～3月までカブトムシの世話を続ける

✧探究活動の実績✧

①「皆はどんな生き物が好き」と問いかけると沢山の返事をしてくれた。

中でも園でずっとカブトムシを育てていた事もあり虫好きが多く、生き物に対して興味をもつ子が多かった。
カブトムシ、カタツムリ、トカゲの飼育から生き物の生体について探究活動を開始した。

②飼育に必要な備品、廃材や図鑑を用意し、子どもたちで自由に飼育環境を設定出来るよう準備した。

虫が苦手な子も、虫好きな子が目をキラキラさせながら話してくれたおかげで、虫や生き物に興味をもつ姿が見られた。そんな中で、これはどうゆう機能を持ってるのか、どこに住んでいるのかなど話し合う子どもたちの姿があった。「分からない」と悩む場合には「調べてみようか」と声掛けをし図鑑などで調べる様子が見られた。

③8月、飼育していた生き物が死んでしまい、子どもたちは「なんで死んじゃったんだろう」「何がだめだったのかな」と悩む姿が見られた。保育者が調べてみようかと声をかけると、図鑑を見たり、もっと色々な本が見たいと熱心に調べる姿があった。調べた結果、生き物の生活環境の改善が必要ということが分かり、週に1度霧吹きで水をあげる、月1回土を変えるを分担して行った。毎日様子をみんなで観察する時間を作り、エサが無くなっていると「もうエサないよあげなくちゃ」と子どもで声を掛け合い順番に餌あげをする関わりがあった。観察した様子は観察日記をつけ、日々生き物の成長と様子を記録した。

生き物の観察、疑問を調べていく中で、子ども達の中で虫の事なら何でも知っている虫博士が誕生し、分からない事は虫博士に聞くなど子ども同士の声掛けや関わりが増えた。周りから「すごいね！何でも知っているね」と声を掛けられ、嬉しそう様子、自分ももっと詳しくなりたいと思う子もいた。

④羽化したカブトムシを他のクラスの子どもたちにも分けたり話をしたりと、活動を通して子どもたち同士の関わりが増えた。「なぜ」と思ったことは図鑑を使って調べ次はこうしよう、どうすればうまく出来るか、が分かったため、次もカブトムシをお世話したい。次は幼虫から蝶になるまでお世話したいなど、他の生き物への興味・関心に繋がった。



生活発表会で今まで疑問に思い調べた内容をクイズ形式にして自分たちで作った模型も活用しながら発表



虫が苦手な子にも知って欲しいと図鑑を見ながら忠実にカブトムシと幼虫を新聞紙で作っている様子



幼虫を触ったり観察しながら観察日記を描いている様子

まとめ

この活動を振り返って、子ども達の気付きには私たちには気が付けない視点があるなと強く感じた。

素直にどうしてと思う気持ちや、分からない事を知ろうとする力、知れた時の笑顔等、身近に感じられ、一緒に味わえた事はとても貴重な経験だったと思う。

生き物というとても大きなテーマの中で、今回は虫に着目したすくわくとなったが、来年度は色々な動植物に触れて、自然いっぱいの中で活動に取り組んでいきたいと思う。



とうきょう すくわくプログラム
2025年度活動報告書（3～5歳児）
文京白山雲母保育園



テーマ【 異文化 】

設定した理由・背景

同じクラスの子で肌の色が違う子や保護者から日本語ではない言葉が飛び交う中で子ども達が不思議そうにしていた。また「はろー」など挨拶を交わすようになってきていた。自分と違い人を知り、認めていく姿が見られた。

用意した環境設定

- ・英会話オンラインレッスンの実施
- ・準備物 世界地図、国旗、図鑑
- ・図書館の利用

活動のあゆみ

- ・4月～毎週月・水・金曜日9時からクラス毎に外国人講師によるオンライン英会話活動を実施
 - ・月に一回異文化交流を実施
- 子どもたちの興味のある食べ物や乗り物、祭りなどの異国の文化を考え、調べ、動画や図鑑、英会話活動を通して探究した。

※探究活動の実績※

①クラスにいる外国籍のお友達、日本語ではない言葉が聞こえてくる中で、「何の言葉だろう?」「肌の色って違うんだ」と不思議に思う様子があった。日本語以外にどんな言葉があるだろう?セブ島ってどこにあるんだろう?外国の食べ物はどんなものがあるだろう?などと問いかけ、

外国の異文化についての疑問や不思議を、図鑑や英会話活動を通して探究活動を開始した。

②図鑑、世界地図、国旗を用意し、疑問に思ったことや気になることを調べられるものを準備した。英会話活動を実施し、英語を知ること、外国人講師に疑問を質問する機会を設定した。

外国人講師との関わり、図書館に行く機会を増やし調べる、知る、探究する時間を増やすことで様々な興味が出てきた。

③英会話活動の中で、フィリピンの食べ物、植物、動物などを教えてもらった際、「見たことない!日本にはあるのかな」「おいしそうだね」と興味を示す様子が見られた。園、図書館にある図鑑や絵本で外国にある食べ物や動物を調べた。一人ひとりが気になること「どんな味がするのか」「動物はどのぐらい大きいのか」疑問に思ったことを、外国人講師に質問をした。写真を見せてもらいながら説明を聞くと、「どんな野菜?」「この動物は鳴くの?」など更に質問をし疑問に対する探究心が膨らむ様子があった。

英語の他に中国語・フランス語を話す保護者がいるため、世界地図で場所を調べ、図鑑や絵本でどんな食べ物や動物がいるのか、「中国にはどんなものがあるかな」と調べる姿も見られた。知った英単語や外国の食べ物をままごとに活用し、日本・フィリピン・アメリカのご飯屋さんなど設定し遊ぶ姿があった。外国の料理を作ろうとした際、「野菜は何を使うんだろう」と疑問が生まれ、外国籍の保護者や外国人講師に質問したり本で調べたりする姿があった。

答えが分かると「見たことない!」「おいしいかな」という反応がありままごとに活用していた。

④毎週の英会話活動を通して、外国の「好きな食べ物」や「物の言い方」などを質問し、知っていく中で興味が大きくなっていった。食べ物や乗り物、服装など日本との違いを知り、他の国への興味が湧いてきていた。また、英語以外の言語にも興味を持ち、子ども同士で話し合う姿が見られた。言葉だけでなく全身で表現することが好きになり、身振り手振りで話す様子が見られた。給食で「トルティーヤ」が出た時に、「フィリピンの食べ物だよ。」と活動を通して知った知識を活かし説明している様子が見られた。



スクリーンに表示される映像を見ながら現地の方と英語で会話をしコミュニケーションを取る様子



4・5歳児が現地の方の質問に答えジェスチャーで伝

まとめ

英会話活動を通して異国の人と交流に当初は戸惑いも見られたが、会話をするとつれコミュニケーションが取れるようになり、言語が同じでなくても通じ合うことを知っていった。その中で世界にはまだ知らない事がたくさんあることを感じている様子だった。園にはフランス語を話す保護者、中国語を話す保護者、英語を話す保護者がおり言語が1つではないことにも気づき、何か国語あるか興味を持っていた。図書館に行き、国旗の図鑑や世界の絵本を借りて読む中で100以上の国があること、また言語は細かく分けると6000以上ある事を知り、フィリピン以外の国への興味も出ていた。また、言語だけでなく食の違い、服の違いは多くの子が興味を持っていた。興味を持ったものを更に深めていけるよう更に環境を整え引き続き探究していきたい。



とうきょう すくわくプログラム 2025年度活動報告書（3～5歳児） 文京白山雲母保育園



テーマ【 運動 】

設定した理由・背景

・子どもたちが逆上がりをしている友だちの姿に関心を持ち、「どうやってやるの」「そんなに身体曲がらないよ」と問いかけている様子が見られた。こうした姿から、様々な動きを経験しながら試行錯誤し、技術を習得していく過程を大切にしたいと考えた。また、友達同士で気づきやコツを伝えあうことで、意欲や挑戦する気持ちが高まると考え、本活動を設定した。

用意した環境設定

・跳ぶ、投げる、走るなど様々な動きのできるサーキットを用意し、自由に身体を動かした。

用意したもの

マット二枚、綱引き、コーン、平均台、ハードル、サッカーゴール、ボール

活動のあゆみ

- ・7月 主活動の時間に導入としてジャンプ鬼ごっこ縄跳びを行ない、跳ぶに着目して活動を行う。
- ・毎週動きのテーマを変え、テーマに沿った様々な運動に取り組む。
- ・11月 運動会ですくわく活動を通して練習してきた逆上がりを保護者の前で披露する。
- ・12月 今まで行ってきた運動のまとめ
- ・1月 生活発表会で活動を通して得た技術を披露

✧探究活動の実績✧

①「逆上がりってどうやったらできるかな?」「身体をどう動かしたらいいと思う?」などの声を問いとして設定した。

子どもたちからは、「どうやってやるの?」「そんなに体曲がらないよ」「出来る人すごいね」といった声が上がリ、出来る友だちの姿に興味や憧れを抱く様子が見られた。

②鉄棒やマットなど運動が出来る備品を用意し普段の保育活動で自由に使用出来るよう環境を設定した。

保育者が「どこに力を入れているのかな?」「やってみたい人はいる?」などと声を掛けると、一人一人が自分なりに体の動かし方を考えたり、挑戦したりする姿が見られた。

③活動が進む中で、子どもたちは「手はこうやって持つんだよ」「勢いを付けるといいよ」と伝えあったり、「今ちょっとできそうだった」「もう一回やってみる」と繰り返し挑戦する姿が見られた。逆上がり出来る子に「足はどうやって上げるの」「手はこう掴むの?」と子ども同士で教えあう様子が見られた。運動活動をしている姿を写真や動画で記録し、自分の体がどう動いているかを観察した。

「足が上がっていない!」「私と〇〇君と動きが違うね」と分析し発見することが出来た。

出来るようになった子は次はこれが出るようになりたい。出来ない子は出来るまで頑張りたいと動画を見返すなど取り組む様子があった。

④終わりの時期には、最初は難しいと感じていた子どもも自分なりのコツをつかみ、意欲的に取り組む姿へと変化していった。

また、できる・できないにかかわらず「やってみよう」とする気持ちや友だちと教え合いながら取り組む姿が育まれた。



サーキット運動を通して自由に身体を動かすことを楽しむ様子



「逆上がりは腕を曲げるとできる」と友だちにアドバイスをもらい、挑戦する様子。



逆上がり出来るようになり、雲梯と同じ動きを行なったかどうかを試している様子

まとめ

今回の活動を通して、子どもたちはできる・できないという結果だけでなく、やってみたいという気持ちや友だちの姿から学ぼうとする意欲を大きく育んでいくことに気づいた。特に、出来る子供がコツを伝えたり、それを受けて繰り返し挑戦する姿から、子ども同士の関わりの中で学びが深まっていく様子が見られた。また、保育者の問いかけによって、子ども自身が身体の使い方を考える姿が引き出されることが、十分な時間と環境を保障することで、試行錯誤しながら意欲的に取り組む姿につながることを実感した。一方で、個々の運動能力や経験の差により、挑戦への意欲に差が見られる場面もあった。そのため、すべての子どもが「やってみたい」と思えるような段階的な援助や多様な関わり方の工夫が必要であると感じた。次年度は、逆上がりだけでなく、ぶら下がる・跳ぶ・支えるなど様々な動きを取り入れた遊びを通して、基礎的な身体の使い方を楽しく経験できる環境を整えていきたい。



とうきょう すくわくプログラム 2025年度活動報告書（3～5歳児） 文京白山雲母保育園



テーマ【 ごっこ遊び（ままごと）】

設定した理由・背景

ごっこ遊びの中でも特にままごとを好んで行なう様子があり、言葉のやり取りの中で「ごはんってどうやって作るの」「このままじゃ硬くて食べられないよ（だから切ったり焼いたりしよう）」等の疑問やひらめきが浮かび上がっていた。また、ごっこ遊びでの会話も、大人の日常を連想させるような物が多く、子ども達のイメージ力や観察力も深めていきつつ、ままごと内での疑問に対する答えを見つけようと設定した。

用意した環境設定

・キッチンセット、調理玩具、食材玩具・テーブルクロス、誕生日ケーキ、カトラリーケースなどを用意

活動のあゆみ

- 4月～ ままごと遊びの中で料理作りが盛んになる
・毎月のクッキング活動を通して、調理に関心を持つ
- 7月～ 夏祭りの制作で、食べ物を自分たちで制作する
- 11月～ 図書館に行き、お弁当作りや食材に関する書籍を借りて読む
- 12月～ 購入したキッチンセットで遊ぶ中で、レストランごっこに発展
- 1月～ 保護者参加型の発表会で披露
自分たちで必要なものを考えレストランのメニュー、看板、エプロン等の制作を行う

✽探究活動の実績✽

①ままごと遊びの中、料理を振舞ってくれる子どもたちとのやり取りの中で、これはどうやって作ったの？と作ってくれた料理の調理工程について尋ね、想像を深め探究活動を始めた。

②ままごと玩具や画用紙などの教材、段ボールなどの廃材を用意し、自由に活動出来るよう環境を設定した。

「焼くんだよ」「何で、どうやって焼いたの？」「こうやってやるよ（ガスの火をつける真似）」等、問いかけに対して答えていく形で日常見聞している経験が活かされており、改めて「そういえばどうやってやるんだろう」という興味を持ち始めていた。

③異文化活動の中で知った、外国の食べ物を教材や廃材を利用して作り、ごっこ遊びに発展させている様子があった。作成する中で、「この食べ物はこれ（赤い画用紙）がいいと思う」「これバナナみたい」と想像力を膨らませながら写真で見たものに近づこうと取り組んでいた。

ままごとの中で、父・母・きょうだい・ペット・赤ちゃんなどの役割を決め、料理を作る人と食べる人とで役割分担をする姿があった。

作る人は、実際のクッキングの体験も活かし「ご飯触る前に手を洗わなくっちゃね」とままごとの水道で手を洗う真似をしていた。「エプロンもつけるんだよ」「落としたり食べられないんだよ」等、実際の生活様相が感じられるやり取りを行っていた。

④購入したキッチンセットや調理小物を用いる中で、作る人と食べる人の役割が明確になってきたことでレストランごっこへ発展した。お客さんがいっぱいだと待たせちゃうから注文を取る人を1人ではなく2人がいいと思うと話合ったり、料理する人は切る人と焼く人にしようと仕組みづくりを考える様子があった。「ママにも食べてほしいな」との声と、みんなが楽しむ姿を保護者にも知ってもらいたいという思いから発表会でレストランごっことして披露した。足りないものは他のものを見立てて遊んだり、ケーキを出すと誕生日パーティーを始めたりと子ども同士の中でままごと遊びの世界がどんどん広がっていった。



左：エプロンを自分たちで着用する様子
右：食材、調理について借りてきた本を読む様子

自分たちのオリジナルエプロンを作成している様子

レストランごっこに発展し、自作のメニューをもとにシェフ役がオーダーを取ったり調理したりしている様子と提供された料理を食べる姿

まとめ

子ども達が普段何気なく遊んでいる中で、日常を再現しているかのような大人顔負けのやり取りを行なっていることに改めて気付かされ、幼いながらも周りの大人のやり取りをよく見聞しているなと感心することも多かった。その中の会話に焦点を当て問いかけをしていく中で子どもたちもふと疑問を持つ姿があり、一緒に考える機会を持てた。今後のクッキング活動やままごと遊びを通し、食育だけでなく日常のちょっとした疑問点なども自分たちで探求していけるように一緒に考えて学んでいきたい。



とうきょう すくわくプログラム
2025年度活動報告書（2歳児）
文京白山雲母保育園



テーマ【乗り物】

設定した理由・背景

乗り物が好きな子どもが多い為、「乗り物」をテーマとして設定した。色々な種類の乗り物に興味を持ち、遊びながら交通ルールの理解も深めていく。

用意した環境設定

- ・手作りで電車や改札を作り、走らせて遊べるようにした。また、道路を繋げて、街にあるものを想像しながらお店を作り、色々な形の積み木を使って街に見立てて遊んでトミカや電車を走らせて遊べるようにした。さらに、電車が見える公園に遊びに行った。
- ・準備物 絵本、電車の磁石、トミカ、道路

活動のあゆみ

- 9月 電車作りから遊ぶ。
- 11月 後楽園駅に行って走っている電車を観察
- 1月 街づくり トミカに合わせて建物制作
- 2月 街づくり
様々な積み木を合わせて建物制作

✽探究活動の実績✽

①乗り物をテーマとして設定し、「好きな電車を作ってみよう」「街にはどんなものがあるかな？」など問いかけを行った。

②制作用に段ボールや画用紙などの教材や乗り物の玩具を用意し自由に制作できる環境を設定した。

戸外散歩で街を観察しながら歩き、実際に走る車や電車を観察した。

写真や動画で記録し、自由に好きな乗り物や道路を作り、その周りに色々な形の積み木を用意して街を表現した。

③戸外散歩で観察した内容について、どんなものがあつたか子ども同士で話し合いを行った。後日、道路、その周りに色々な形の積み木を用いて家や木、公園などに見立てて街を表現した制作活動を実施。制作した街で車や電車を走らせて遊ぶ活動を行った。

段ボール電車は、絵の具で好きな色で自由に塗り、改札やICカードを制作。子ども同士、「ここはこうだったよ」「この色がいいかも」と声をかけ合いながら協力して制作する姿が見られた。

制作活動を通して子ども同士関わる機会が増え、それぞれイメージし自由に制作することが出来た。

信号機や白線を作成し交通ルールの設定（赤の時は止まる）（白線を超えない、左を走る）を決め、ルールを守って乗り物を動かすことを行った。

電車の改札では一人ずつタッチする、順番にタッチするなど車と電車それぞれのルールを決めをし乗り物を動かす活動を行った。

④全活動を通して友だちと話し合いながら進められるようになったと感じた。話し合う、協力して作品を作るという達成感を感じることもできた。制作をすることで、それぞれ乗り物の役割、形、速さなどを知り、「走る」だけでなく、乗り物の色々な姿を知ることが出来、更なる興味に繋がった。



後楽園駅で電車を見に行った様子



手作り電車に乗りながら改札に入る様子



道路の脇に公園を作っている様子

まとめ

乗り物を通して遊びが広がり、すくわく活動を通して協調性や創造力を育む事ができた。
来年度も戸外に出て、街の仕組みや乗り物の役割に興味を持てるような活動を考えていきたい。



とうきょう すくわくプログラム 2025年度活動報告書（1歳児） 文京白山雲母保育園



テーマ【 生き物 】

設定した理由・背景

散歩の際に花や生き物がいることを教えるとじっと観察をしたり自ら見つけて保育者に教えてくれる姿からテーマを設定した。

用意した環境設定

- ・室内でも生き物をゆっくりと観察できるように環境を設定
- ・室内でじっくりと生き物について知れるように本を用意。分からない生き物を調べられるようにした。

準備物

- ・アリの巣観察キット
- ・生き物、植物図鑑
- ・生き物絵本
- ・虫かご、虫取り網

活動のあゆみ

5月 戸外活動の時間に自然探索を行う。

6月 アリの巣観察キットでありを観察

10月 ちゅうりっぷの球根の水やり、観察

12月 ナメクジを戸外で見つけ、観察、飼育を行う。

✿探究活動の実績✿

①植えた植物、見つけた生き物を見て「ここに〇〇があるよ。触ってみる？」と声掛けをした。

「これ何かな?」「どんなお花が咲くのかな」など子どもたちの興味関心から問いを設定した。

②球根と観察キットを用意し実際に観察できる環境を設定した。

観察キットは園児が使用する机に置き、子どもたち目線で見やすいところに設置。図鑑も保育中は机に置きいつでも手に取れるように置いたり、本棚の一番前（よく見えるところ）に設置し常に子どもたちの目に入るよう環境設定をした。

子どもたちが動植物を見たり触ったりし「小さいね。動いてるね。」と声をかけると興味津々な様子が見られた。初めて見る子も多く、じっと見つめる子、初めて見るものに距離をとり怖がる子、指で触ろうとする子など様々な様子が見られた。

③虫や植物を見つけると「先生、見て」と言い、保育者や友だちに虫や植物を共有しようとする姿が見られるようになった。

生き物によっては、動いている様子を見て驚く子どもや動いていることを喜ぶ子どもなど、反応がそれぞれ違っていた。恐る恐る手で触ってみる姿が見られて様々な生き物に対して興味が大きくなる様子があった。「ありさんは何を食べるんだろうね」という問いに対し、葉っぱや枝をキットに置いたり、園で育てている野菜を指さし「これ」と伝える姿があった。

④子どもたちから「先生見て。〇〇があったよ。ここに虫がいるかな?」等と伝えるようになった。

戸外に行った際には、子ども達が自然と動植物探しを行う姿が多くみられるようになった。育てたお花や観察していたありを他クラスの保育者や友だち、保護者にも見せ共有した。



アリの巣観察キットを見る様子



せみの抜け殻を観察する様子



地面を掘って虫がいらないかを確認する様子

まとめ

最初は保育者がここに虫や植物について教えた伝えたことで観察が始まることが多かったが、虫に触れる機会が増えたことで子どもたちから虫や植物を探すようになった。また、保育者と子どもだけの会話だったのが、子どもが自然と友だちにも教えてあげるなどして全員が興味をもつようになっていった。来年度に向けて、もっと図鑑などを上手く利用し探求できるようにしたい。